

## 診察室

## ざくばらん

# ひとによって

# 症状いろいろ

## 慢性硬膜下血腫

ひとはいろいろ。感じ方もいろいろなら、表現もいろいろだ。患者さんの訴えを、そのまま受け入れることができるなら、医者も楽だが…。

85歳のF子さん。認知症で通院中だ。ある日、「座っていても、頭がクラクラする」と訴える。目まいではなし、ふらつきでもない。頭も痛くないという。ただ、「クラクラする」と言うのである。

ひょっとしたら、Fさんは認知症のせいで、症状をつまぐ説明できないのかもしれない。しばらく経過をみようか。でも、たまたま時間があったので、頭のMRI（磁気共鳴画像装置）の検査を試みた。ワッシーは運が強い。なんと、右側の脳の

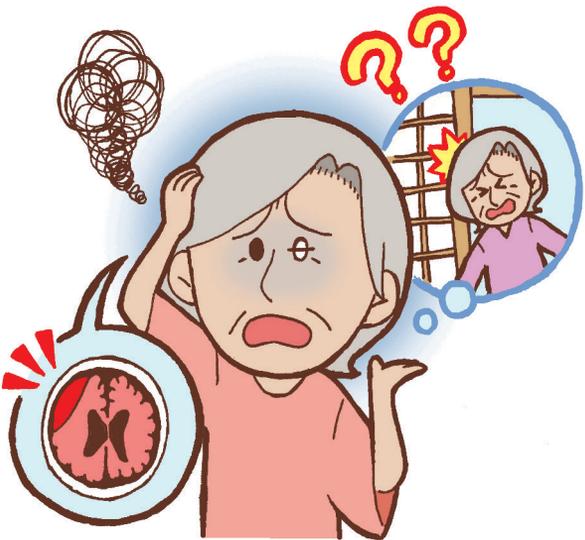
表面に1センチ以上の厚みがある「慢性硬膜下血腫」が見付かったのだ。検査をしなければ、ヤバイことになっていたかも。

慢性硬膜下血腫は、ドアに頭をぶつけた程度の軽微な頭部外傷でも起きる。受傷後2、3週間以上経って、頭を打ったことを忘れられる頃に血腫が大きくなってくる。年を取ったひとは、一般に脳が萎縮している。血腫ができやすい。で、その血腫が大きくなっても、頭痛や嘔吐のような単純な症状の出方はしない。Fさんのようなフケの分からない症状や精神症状などが出ることも少なくないのである。

ところで、患者さんから、「もしも慢性硬膜下血腫ができたら、自分はどうな症状が出るのか?」と質問されることもある。ワッシーはわざと、「とにかく変わったことがあったら、まずは脳外科医者に相談を」と答えるだけだ。が、中には「例えば、どんな症状が?」とキメキメ人間もいる。仕方なく、「手足が麻痺するとか、しびれるとか。失語症も」と答える。が、若いひとだって、変わった症状が出るひとだっているのだ。と思いついては、今夜も眠れない。頭がクラクラしそうだ。

(石黒修三 いしぐろクリニック)

・脳神経外科専門医、金沢市在住、射水市出身)



イラスト・野畑桃花